

経営比較分析表

北海道 余市町

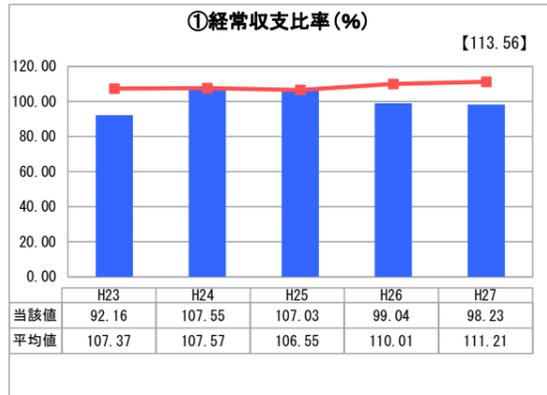
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	35.90	97.73	5,336

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,879	140.59	141.40
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,208	34.37	558.86

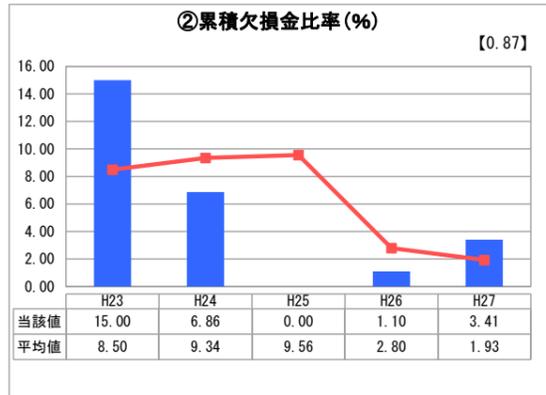
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

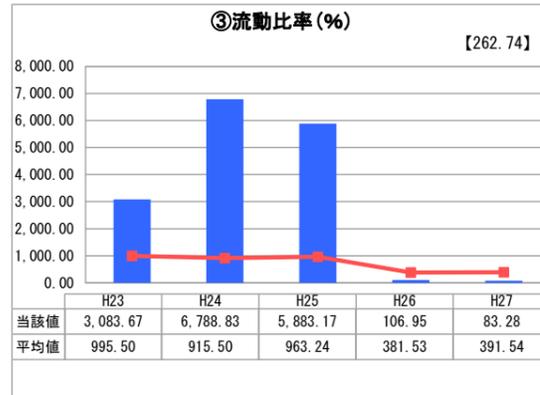
1. 経営の健全性・効率性



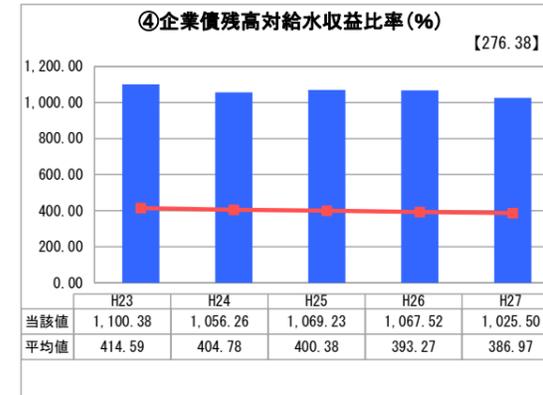
「経常損益」



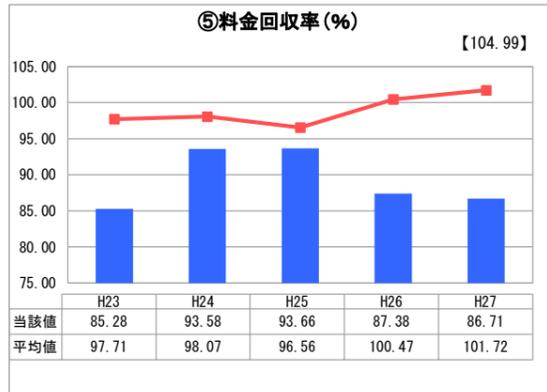
「累積欠損」



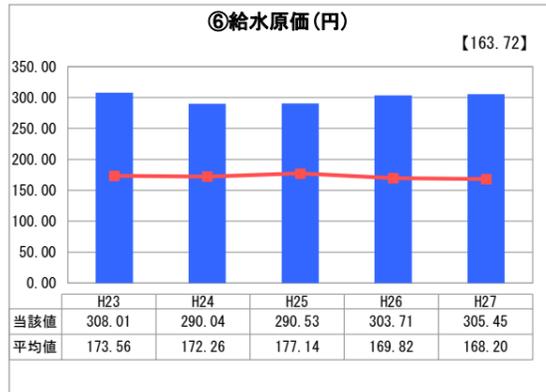
「支払能力」



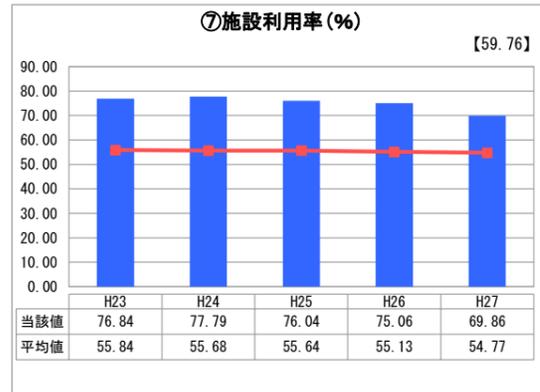
「債務残高」



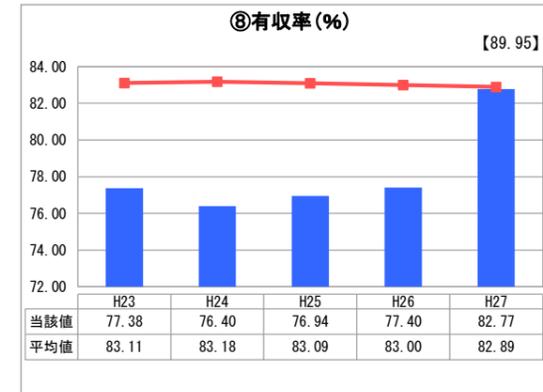
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

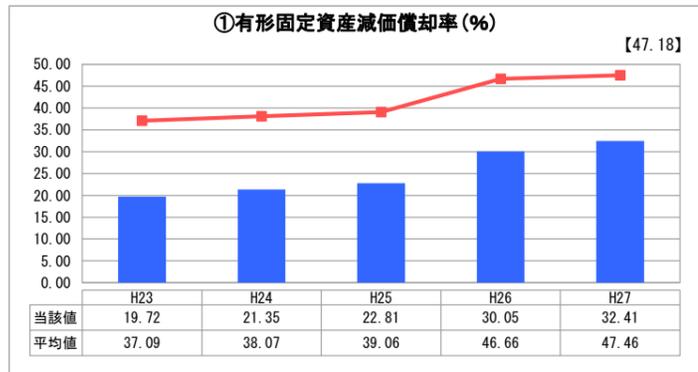


「施設の効率性」

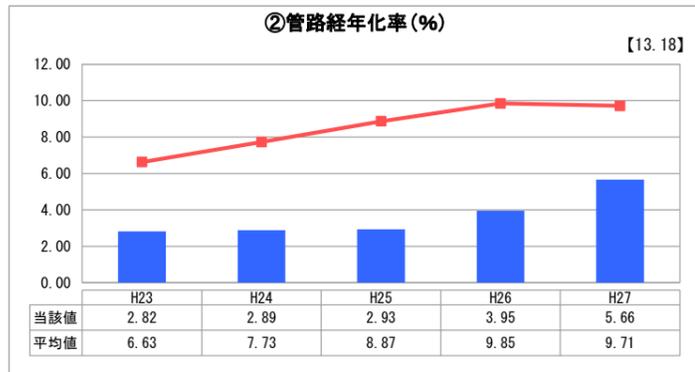


「供給した配水量の効率性」

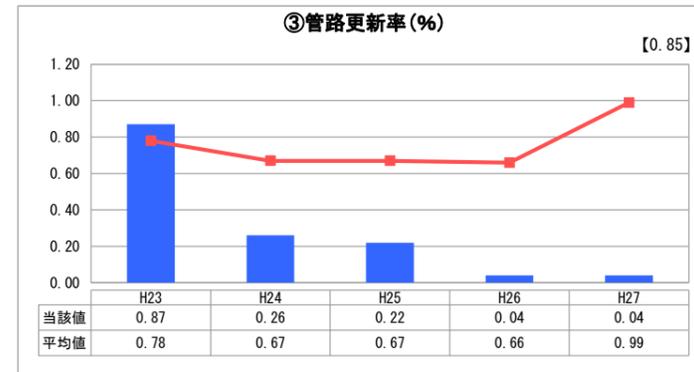
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

人口減少に加え、一般家庭での節水意識の浸透や景気の低迷などによる事業所や工場における使用量の減少により、料金収入の減少が続いています。平成26年度より経常収支比率が100%を下回っており、累積欠損を生じています。

料金回収率が全国平均や類似団体平均に比べ低く、現状では、給水に係る費用を水道料金で回収できていないことを示しています。

企業債残高については、減少傾向を示しますが全国平均や類似団体平均と比べ、高い水準となっています。

施設利用率の低下については、管渠の老朽化に伴い発生していた慢性的な漏水について、積極的な調査と修繕により、有収率が改善されたことによるものです。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、全国平均や類似団体と比較して高くはありませんが、上昇傾向となっています。昭和50年代までに急速に整備された管路が耐用年数を迎えており、近年の管路更新率が低いことから、老朽管路の延長が増加しています。

管路更新にあたっては、重要給水施設への管路耐震化を優先したうえで、更新需要と財政収支について中長期的な視点で計画し事業を進めます。

全体総括

料金収入の増加が見込めない中で、将来に渡って安定的に事業を行うため、アセットマネジメントの手法により、水道事業の見える化を進め、施設更新における需要状況と優先度を把握し、必要に応じてダウンサイジングを行うなど、投資の効率化と維持管理費の削減に取り組みます。

また、企業債の償還金と減価償却費との間に構造的に生じる資金不足については、資本費平準化債の積極的な活用により、世代間による負担の公平を確保します。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。